

Kyoto Hollywood News 京都ハリウッド通信

「RED SHADOW 赤影」 公開目前。主演・監督に聞く!

撮影も終了し、
いよいよ公開目前となった
「赤影」。
本誌が聞く監督・
中野裕之監督と
主演・安藤政信の肉声。
看板ふたりが
その抱負と舞台裏を語る!



主演・安藤政信一問一答

■中野監督は「キッズ・リターン」以来の、安藤さんのファンで、今回の主役も安藤さんでなければ監督を引き受けなと言ったさうですが、安藤さんはいかがですか?

安藤 中野監督とはずっとやりたくて、やっと実現しました。大変嬉しく思っています。

■中野監督は50メートルの高さにスタントマンなしで、安藤さん本人を吊り下げたいなど、生身のアクションにこだわっていますが、忍者アクションは練習しますか?

安藤 アクションの練習は特に何もしてません。得意なのは手裏剣かな。中野監督が藤井フミヤさんとメーラーをやり取りして、二丁手裏剣なんて案も出ています。

■飛鳥(麻生久美子)とのラブ・ロマンスが物語のモチーフの一つになっていますが、お二人のラブシーンはあるんですか?

安藤 ないですよ(笑)。

■撮影で楽しい事は?

安藤 竹中さんと芝居やっていると笑っぱなしです。悲しいシーンでも楽しくなりますね。



1545年、時は戦乱の世。戦国大名が戦いに明け暮れていた頃、彼らに仕える忍者たちもまた、死闘を繰り広げていた。影一族と呼ばれる忍者集団もまた、その一つである。ある日、影一族の赤影、青影、白影、飛鳥たちに「京極城の地下に眠る新式兵器を偵察せよ」という任務が下る。しかし京極城は根来忍軍と呼ばれる強力な忍者集団に守護されていた。案の定、根来忍者と赤影達との間に、壮絶なバトルが勃発する。しかし多勢に無勢、赤影達の状況は次第に悪化していく...

監督・中野裕之監督インタビュー

みんなも覚えている「赤影」の記憶を確かめるために再見したけど、今の若い人はタイトルくらいしか知らない昭和のヒーローものなので、21世紀に向けて映画化するならば、キャラクターの名前以外はすべてオリジナルにしようと思った。だから「赤影」のリメイクでもなく、「RED SHADOW」なのです。赤影という忍者が新しく影忍者達の頭となるので、赤影誕生編ですね。ワクワクしてカッコ良い忍者映画は誰しもが見たいものですから、絶対にその期待以上で、凝りに凝った映像を撮ります。ただし、メーラーなどでリクエストの多い、「白影の風はあるのか」とか「青影の大丈夫」のポーズはあるのかに関しては一応サービスしようかな。

主演の安藤政信君に関しては、「キッズ・リターン」以来の大ファンで彼が「出たい」と言ってくれなければ、この映画は撮っていないでしょうね。世間的に思われている彼のナイーブな印象だけじゃなく、スポーツマンでファンキーでお茶目な魅力を持つ彼の味を引き出しつつ、超かっこいい映画にしたいですね。

子供から大人までみんなが楽しめる本格的スーパー娯楽映画を目指したい。今まで見た事のない映像に加えて、体操選手のキレのよいアクションもとりまぜて忍者ムービーの最高峰を目指します。CGよりもそういった超ウルトラアナログなアクションは、ワイヤーを使った中国香港系アクションとは一線を引いた、新しいものになるはず。

光のある世界の為に身を捨てて活躍する影忍者・赤影を中心としたラブ・ストーリーです。ワクワクドキドキしてカッコ良く、笑えて泣けて最後にはピースな気持ちでいっぱいになるような映画を作ります。「バットマン」と「プロ」を足して、それをcuteにしたNINJA MOVIE、それが「RED SHADOW 赤影」です。



日本新記録ノギネスに挑戦! 「暴れん坊將軍」 第11部・7月スタート! 本誌独占コメント集!!

松平健主演で番組がスタートしたのは昭和53年1月7日。以来、本年1月11日放映のスペシャルで800回を迎えた。これまでの、1人が主演の時代劇の最長寿記録は「銭形平次」の888回。その記録を打ち破り、日本新記録樹立を目標とする第11部は、同じく新世紀にイメージを一新した長寿時代劇シリーズ「水戸黄門」の向こうを張って、キャストを大幅にリニューアル、内容もグレードアップして登場する。

今回登場する新たな顔触れは、め組の頭・栄五郎に松村雄基、そ

●松平健 (中央)

「いよいよ800回に突入しましたが、僕自身はマイペースでやって来ただけで、余り変化はありません。ただ、ここまで来たかという感慨はありますね。僕自身、24年間吉原をやってきました、身も心も大きくなったと思います。吉原が將軍になるころから始めて、徐々に成長してきた訳ですが、僕も一緒に成長してきた感じです」

●松村雄基 (右端)

「江戸物のレギュラーは初めてです。火消しというのはメチャメチャカッコいい! 僕としては、このカッパよきは何かがというのがテーマです。若い頃、時代劇に出演したんですが、目標がない自分がイヤになった事があります。僕は祖母の影響で子供の頃から時代劇をよく見ていたので、松平さんとお会いした瞬間、あ、本物だ! と感激しました」

●ついでに (中央右)

時代劇のレギュラーは初めてなので、戸惑いが多いです。時代劇特有の問合いが難しいんですが、ようやく慣れて来た所です。私の役はいろんな面を持っていて、いなければと思っています。ひまわりの花が咲いた様な明るさ、誰かに支えらなければいけない様な弱さ、男衆に負けない様な江戸っ子の気っ風の上よき、そうした面をバランスよく演じていきたいです



お庭番・あざみも松永香織にリフレッシュ。左より大森貴人、松永香織

の妹・お杏にいしのようなこ、小頭・峰次に中野英雄、公儀お庭番・あざみに松永香織といった面々。内容的には痛快時代劇の原点に立ち返って、これまで以上のアクションを披露。ストーリー展開をよりスピーディーに、かつ面白くしていくと言うのだから期待大! 「暴れん坊將軍」第11部は7月スタート予定。毎週木曜日夜7時よりテレビ朝日系にて放映。



●北島三郎 (中央左)

24年前、少しでも縁の下の方持になればいい、松平君が大スターになればいいと思って引き受けた仕事ですが、辰五郎という他の役も、他自身に合っていないんだ。これからはもっと続けてほしい。新しい番組だけとおちやうと続けてほしい。私も時々出て来ますから、皆さん見てやって下さい

●中野英雄 (左端)

元々舞台と時代劇は苦だったんですが、50という自分の年齢を考えた時、よし、やってみよう、自分から飛び込んだんです。初めはレギュラーでしたが、かなり自由にやらせてもらっているので助かっています。東京は都は悪い所と聞いていたんですが、今は心地よい空間を作ってもらっています

今月の目録

京都の撮影所が元氣だ。今回「紹介した」赤影、「千年の恋」以外にも石ノ森章太郎原作「化粧師(けわし)」(出演・椎名桔平、菅野美穂)、三池寛史監督「カタクリ家の幸福」(出演・沢田研二、武田真治)など、劇場映画が続々と撮影

TOPICS

水戸黄門

新世紀を迎えた由美かおるの宿敵はコロツケ

石坂浩二を黄門役に迎え、レギュラー陣を一新した「水戸黄門」で、唯一旧メンバーから続投しているのが由美かおる。前作までは女忍者・お銀を演じていたが、今回より黄門一行を影で支える女忍者の頭・疾風のお絹を演じている。今回、お絹の前に立ちちはだかり、黄門の命を狙う忍者・素破の次郎坊を演じているのがコロツケ。「え? あのコロツケが忍者!」と驚き、コメディ・タッチの演技を想像する読者も多いと思うが、写真をご覧の様に、なかなかの風格でシリアスな役柄。由美かおるの宿敵としても存在感たっぷりだ。由美かおるとコロツケ、異色対決の結末はどうなるのか? それは最終回までのお楽しみ。「水戸黄門」は毎週木曜日・夜8時よりTBS系にて放映中。



源氏物語

東映創立50周年記念! 千年の恋・ひかる源氏物語

昨今では、江川達也氏によりコミック界でも俄然注目を集めつつあり、悠々の年月を越えて、今日も人々に愛される「源氏物語」が、東映創立50周年記念作品として、東映京都撮影所で撮影をスタートさせた。タイトルは「千年の恋・ひかる源氏物語」。東映創立50周年記念大作として製作され、公開は2002年正月の予定。脚本は「夢千代日記」の早坂暁、監督はテレビ「岸辺のアルバム」などで数々の賞を受賞し、今回が映画初演出となる堀川とんこう。題字・イラストは片岡鶴太郎。出演は天海祐希、松田聖子、常盤貴子、吉永小百合、渡辺謙ら豪華スター。2002年の正月映画第1弾として全国東映系劇場にてロードショー公開の予定。

されている。「赤影」を除いて、いずれも正月映画として公開が予定されており、2002年の正月映画は京都発の大作が目白押しという事になりそうだ。

2001年7月1日 山田誠二

責任編集人 山田誠二
1963年生まれ。京都を拠点に、映画のプロアユース、脚本、評論など多方面で活躍の作家。映画関連著作多数執筆。